

- I. 学校関係者評価の実施
 - (1) 学校関係者評価の概要
 - (2) 学校関係者評価委員会委員名簿
 - (3) 学校関係者評価委員会日程
 - (4) 学校側出席者名簿
- Ⅱ. 学校関係者評価の結果
 - (1) 重点目標に関する評価・意見
 - (2) 評価項目ごとの評価・意見

I. 学校関係者評価の実施

(1) 学校関係者評価の概要

学校の教育目標、計画に沿った取り組みの達成状況、学校運営等への取り組みが適切に行われたかについて 自己評価を行い、学校運営等の課題について、継続的に改善を図るとともに、評価結果を公表する。

自己評価結果の客観性・透明性を高めるとともに、設置学科に関連する企業・団体、卒業生、保護者など、 学校と密接に関係する者の理解促進を図り、継続した連携協力体制を確保するため、業界関係者、卒業生、保 護者等学校関係者から規定に基づき選任した委員による「学校関係者評価委員会」を設置し「学校関係者評価」 を実施する。

当該委員会の委員の助言、意見などの評価結果を学校運営等の改善に活用する。評価結果と改善への取り組みを本校ホームページに掲載し広く社会へ公表する。

(2) 学校関係者評価委員会委員名簿

氏名	所属	選出区分
西川 珠紀 氏	第一学院高等学校金沢キャンパス	高等学校
坂本 博 氏		地域住民
竹田 太志 氏	株式会社C8LINK 代表取締役	関係業界
角谷 亜紀 氏	医療法人社団仁智会	保護者
多田 康平 氏	学校法人ファースト学園 非常勤助手	卒業生

(3) 学校関係者評価委員会日程

1. 令和4年6月23日(木) 16:30~18:30

2. 令和4年10月29日(土) 16:30~18:30

3. 令和5年2月17日(金) 16:30~18:30

(4) 学校側出席者名簿

氏名	所属
加藤 泰博	校長兼事務局事務長
山上 むつき	副校長兼情報システム科・情報ビジネス科 学科長
片口 瑞穂	グローバルコミュニケーション科 学科長
荒田 真一	情報システム科・情報ビジネス科 主任
羽場 和馬	広報 主任

Ⅱ. 学校関係者評価の結果

- (1) 重点目標に関する評価・意見
- 1. 学科再編による教育環境の充実

【評価】4

【意見】

◇第1回

- ・中等教育までの学習においても「個別最適化」が叫ばれるなか、学生のニーズに合わせて学びが実現できるカリキュラムを提供できるコース設定は評価できる。また、卒業後の実務分野で求められる専門士資格を得ることができることが考慮されたコース設定は、学生を送り出す高校の立場からも上級学校への進路指導の際に役立てていくことができるのでは、と期待感を持つことができる。(西川委員代理 横山氏)
- ・時代の流れやニーズによって学科の新設はよい。(竹田委員)
- ・留学生向けでもあるので、学内ルールの整理や国内での学生の確保や需要への対応・学びの質の均一化。 (竹田委員)
- ・留学生への対応が主のように感じた。国際社会ではありますが、社会・一般企業に入社しますと、日本人が主となる。日本の学生にとっても充実した日々が送れる魅力ある学校であって欲しい。(角谷委員)
- ・ニーズにあった学科再編計画だ。(多田委員)

◇第2回

- ・学生、保護者、地域のニーズにあわせて教育環境を整えていくことは、とても重要。(西川委員)
- ・分かりやすい名称と専用の資料により適切に進められている。時代の流れと学校の強みを活かした取り組みである。(竹田委員)
- ・時代に合わせて学科を検討していくことは良いことだと思う。(角谷委員)

◇第3回

・工業と商業とで専門を別けて明確化できている。また新2年生に対しては、入学当初の授業内容を実現する ため選択授業によるケアができている。(竹田委員)

2. 教育内容の質の向上

【評価】4

【意見】

◇第1回

- ・社会で即戦力として活躍するためのテクニカルな実践授業が展開されることは評価し、期待したい。新学習 指導要領の則り「主体的・対話的で深い学び」「社会に開かれた教育」に中等教育各機関が取り組んでいる最 中であるが、その教育が高校卒業後に中断することがないようにしてほしい。また貴校在籍の留学生と日本人 学生とが、交流を深め多様性のある社会のなかで活躍できるという観点において、実践的な授業が展開される ことを期待したい。(西川委員代理 横山氏)
- ・機材(教具)の充実化について、学びの質を高める手法としてよい。(竹田委員)
- ・地域住民や周辺企業とのやりとりなどの地域連携型の取り組みを行ってはどうか。それが地域貢献にもつながる。(竹田委員)
- ・Teams などの導入は必須。(竹田委員)
- ・保護者として学校で何を学んでいるのかわからない。資格などを取得していることは良い。また社会に出て 利用価値のある資格かはわからないが、自分の自信になると良いと思う。(角谷委員)
- ・卒業生の雇用による授業サポートなど、円滑な授業を行うための取り組みを行っている。(多田委員)

◇第2回

- ・企業との関係の強化、時流にあわせた教育はとても評価が高い点。またグローバルコミュニケーション科の 合格対策やプロフィシェンシー重視の教育も良い。(西川委員)
- ・より実践的な取り組みが行われおり、地域企業とのコラボや実践を進めている。また検定の合格率の向上に 対して目標を定め、取り組まれている。(竹田委員)
- ・ICTの利活用が進められている。(竹田委員)
- ・新たなことにチャレンジし実践出来る授業方法は学生の今後、社会に出た時に活かせると感じる。(角谷委員)

◇第3回

- ・企業と共同しながら実践的学習を取り入れている事は非常に評価されるところ。(西川委員)
- ・検定合格率が目標未達(坂本委員)
- ・産学連携や地域演習が進んでいる。また実践的なシステム開発や実用が出来ている。(竹田委員)
- ・ 合格率低下に対しての分析とケアが出来ている。(竹田委員)
- ・企業との共同開拓はとても良い。卒業してすぐに社会人というのは、なかなか難しい学生もいると思うので、学生時より、企業と関わる機会が頂けることはありがたい。(角谷委員)
- ・グローバルコミュニケーション科は検定合格率UPが必要。今後日本で仕事をすると思うと必要。(角谷委員)
- ・より実践的な授業を行うための取り組みとして、次年度も更に企業からの講師を招くための努力をしているのは、とても素晴らしい。(多田委員)

3. 学習環境の整備

【評価】4

【意見】

◇第1回

- ・第一印象として「大変きれいな学校だ」という感覚を抱いた。留学生の受け入れ再開や多くの日本人学生の確保の観点から、自転車駐輪場などを再整備されるとのことだが、外観美化の観点で地域住民との共存をぜひ意識してほしい。また、校内美化においては多くの学生は高校までの段階で意識付けがされているかと思う。自らの学び舎は自ら守る意識付けを実践してほしい。(西川委員代理 横山氏)
- ・新学科設立や機材拡充における教室整備やゆとりある席の確保などに努めてほしい。(竹田委員)
- ・きれいに清掃されており良い。(角谷委員)

◇第2回

- ・大きな校舎なので、活用をどうするか、美化にどう努めるかは、確かに課題の1つだと感じる。(西川委員)
- ・学内に貼り紙を行い、美化に努めている。(竹田委員)
- ・2階スペースの活用が進められている。(竹田委員)
- ・設備の充実は良いと思う。(角谷委員)

◇第3回

- ・教室の改修による学習環境の充実はとても大切だと思う。また学生自身による美化活動は学生本人のこれからを考えても意義あることだ。学校と学生が互いに協力しあう関係をつくれることが今後も必要だと感じる。 (西川委員)
- ・校内の美化に努めている。(竹田委員)
- ・新教室の改修が進んでいる。(竹田委員)

4. 教員の質の向上

【評価】4

【意見】

◇第1回

- ・学生からの評価だけではなく、教員間での評価を重点目標として掲げられたことについて、さらなる授業の質向上に向けた意識を感じる。これらの取り組みがどのような教育力向上につながるのか、また専門分野以外のスキルアップを具体的にどのように果たしていくのか、が鮮明になればよりよかった。次回以降の会議の際には具体的取り組み内容をお伺いしたい。(西川委員代理 横山氏)
- ・教員が新しい技術に取り組む姿勢はとてもよい。(竹田委員)
- ・留学生への対応が大変な中、色々な事を教育する大変な仕事だと思う。そのような中、一人一人にも目を配って頂き感謝している。学校内外問わず、対応して下さり素晴らしい。(角谷委員)
- ・教員同士での授業を評価する取り組みは良い。(多田委員)

◇第2回

- ・授業アンケートによるFBの制度は教員の成長にとても重要だと思う。(西川委員)
- ・学生アンケート、教員アンケートなどの実施や時代に合わせた取り組みが進められている。(竹田委員)

◇第3回

- ・アンケートのシステム化や見直し、新規取り組みが検討・実施されている。(竹田委員)
- ・勉強会等による教員へのスキルアップがなされている。(竹田委員)
- ・留学生の語学等と情報工学と分野が違う教員同士で教え合うことは素晴らしい取り組み。(多田委員)

5. 広報の強化

【評価】 4

【意見】

◇第1回

- ・本校生徒が貴校主催の体験授業や出張説明会など、様々な機会でお世話になっており、感謝を表したい。他の高校においても様々な取り組みを実践されていると思うが、高校側と貴校側で広報上どのようなコラボレーションをされているか、ぜひご共有してほしい。また、進路指導の面において、貴校を紹介する点において求めておられる生徒像などのキャッチコピー等があればご教示いただき、指導につなげていきたい。(西川委員代理 横山氏)
- →今後、更に明確にし提示できるように取り組んでいく。(山上)
- ・少子化の中、入学者が安定して確保できていて良い。(竹田委員)
- ・グローバルコミュニケーション科の留学生が増員しているので、とても良い。(竹田委員)
- ・LINE の公式アカウントやインスタグラムのアカウントなど広報の強化が進んでいる。(多田委員)

◇第2回

- ・広報担当者の長年の活動が基盤となり、通年を見通した広報活動ができている。(西川委員)
- ・サイトリニューアル、TVCM、ラジオCMなど、充分な強化が行われている。実際にラジオもよく聞く。 また、SNSの利活用がなされている。(竹田委員)
- ・広報活動をしなくても魅力ある学校が理想。(角谷委員)

◇第3回

・それぞれの媒体をうまく使って活動の幅を広げられている。(西川委員)

- ・SNSやCM等を積極的に活用できている。(竹田委員)
- ・新学科への入学に対して活動できている。(竹田委員)
- ・コロナ禍の難しい対応の中でも海外発信の確保ができている。(竹田委員)

6. キャリア支援の強化

【評価】4

【意見】

◇第1回

- ・就職率100%を目指すことは並大抵のことではないかと思うが、実績として実現されていることからぜひとも達成していただきたい。高校の進路指導の際、生徒本人よりも保護者が進学先の就職率や就職先を気にかけられているケースは往々にしてある。どのように高い就職率を実現されているのか、お伺いしたい。(西川委員代理 横山氏)
- ・比較的早い段階で就職できているので、とてもよい。(竹田委員)
- ・留学の学生も増えてきたと思うので、その後の活躍について紹介してあげても良いのではないか。(竹田委員)
- ・卒業生のアルバイト雇用等の個人にあった提案、取り組みができている。(多田委員)
- ◇第2回
- ・進学率や内定率は教育の成果の1つと言える指標ですので、今後も地域、国際貢献として期待したい。(西川委員)
- ・個別面談や個別指導の実施がなされている。また卒業生への発信などを積極的に行っている。(竹田委員) ◇第3回
- ・就職率100%を達成。(竹田委員)
- ・就職・進学のサポートが行われている。(竹田委員)

7. ガバナンスの強化

【評価】4

【意見】

◇第1回

- ・コンプライアンス体制の構築の点において、多様な学生を受け入れるにあたって、各種ハラスメント対策や 異文化理解を通したルール整備など、どのような学生も充実して安心・安全な環境の中で学生生活を送ること のできる環境整備を継続的に行っていただけることを期待したい。(西川委員代理 横山氏)
- ・保護者説明会や学園祭などを通じた地域との交流を行っていてとてもよい。(竹田委員)
- ・評論会の実施による意見交換を行っているところ。(竹田委員)
- ◇第2回
- ・ロードマップの作成等、とてもよく考えられている。(西川委員)
- ・今後、取り組みが強化されていく様子。(竹田委員)
- ◇第3回
- ・取り組み中とのことで、引き続き経過報告がほしい。(竹田委員)

8. その他

【評価】4

【意見】

◇第1回

- ・全体的により具体的な各種取り組み内容をお伺いできれば、なおよかったのではないか、と感じる。定量的・ 定性的目標の実現に向けて、そのプロセスが具体的にどのように進行しているのか、検討課題については具体 的にどのように検討をしているのか、を伺うことができればよかったと感じた。今年度の3年生においても進 学先の候補として、貴校を挙げている生徒が幾名かおり、その他様々な場面でお世話になることがあるかと思 うが、ぜひとも末永く両校発展のためにご協力できればと思う。(西川委員代理 横山氏)
- ・教室が狭く感じてきましたので、教室整備の拡充をお願いしたい。(竹田委員)
- ・ホワイトボードが側面にあったり小さいものなので、後ろの学生が見にくいのではないか。そこで Teams などを導入いただければ、それらをカバーできるので、ぜひお願いしたい。また実際の会社の現場でも使われているツールでもあるので、就職後も活用できるスキルだと思う。(竹田委員)
- ・文化教養の教育目標にある「日本文化への深い造詣を養う」とは、どのような事を行っているか知りたい。 またもう少し日本人学生が集まる工夫等もあったら良いと思う。(角谷委員)
- ・留学生と日本人学生との交流については、「金沢めぐり(遠足)」での活動は留学生・日本人学生ともに良い経験になったのではと思う。また留学生の多国籍化が進み、休み時間、放課後等の時間で、日本語で話す様子を見かける機会が増えると親近感がより増すと思う。(多田委員)

◇第2回

- ・生徒との連絡が密にとれるということは、とてもよい。(西川委員)
- ・各種取り組みを実施出来ている。(竹田委員)
- ・日本人学生と留学生とのコミュニケーション、コラボ、イベントなどがあると更にファースト学園ならでは になると思う。(竹田委員)
- ・他校では卒業後アンケートを行ってる。入社した企業はどうか、社員教育、給料、人事、退職希望の卒業生へのアフターフォロー等が、年1回くらい届く。QRコードがあり、そちらから入力している。卒業生へのアフターフォローは、保護者として心強く、とてもありがたいサービスだと思う。(角谷委員)
- →今後、当校でも取り組んでいきたい。(山上)
- ・ I Tを使った効率化、見える化する取り組みが大変すばらしい。(多田委員)
- ・OB訪問やOBの方からの講義の検討をしてほしい。希望する学生が1人または数人で実際に働いている社会人の方から話をしてもらえる機会があると、業界企業研究に役立てることが出来ると考える。文化祭はとても素晴らしかった。(多田委員)
- →今後、機会をもうけていきたい。(山上)

◇第3回

- ・新学科へ期待。(竹田委員)
- ・2階の活用、それで起こる問題点への対応が今後必要。(竹田委員)

(2) 評価項目ごとの評価・意見

(1)教育理念・目標

【評価】4

【意見】

・引き続き地元石川、北陸地域で求められる人材の排出に努めてほしい。(竹田委員)

(2) 学校運営

【評価】4

【意見】

- ・新設(課程変更)学科の入学生は、主にグローバルコミュニケーション科の内部進学者と考えているのか。(竹田委員)
- →特に内部進学者の留学生向けとは考えていない。以前の情報ビジネス科は、情報システム科と同様に工業 専門であったため、ビジネスよりの授業を増やすことが難しくなっていた。以前より学生の要望に対応しき れていないと考えていた。(山上)

(3) 教育活動

【評価】 4

【意見】

- ・実践的授業のテクニック的なことの向上は理解できるが、新学習要領に盛り込まれている内容の主体的、 対話的コミュニケーション技術などはどのように授業に盛り込んでいるのか(横山祐樹(代理出席)委員) →個別指導している。今後は更に具体的に授業に取り入れ、グループワークや海外学生との共同作業を行い、国籍を超えたコミュニケーション力を培っていくよう指導していく。(山上)
- →日本の教育環境も変化しており、これからのグローバル化やジェンダー問題、障害など多様性に対応していく中で、本校は小さいながら様々な人が関わっている環境なので、日本人学生だけでなく留学生もイベントや普段から様々な関わりを持たせていきたい。しっかりとコミュニケーションをとれるように指導していきたい。(片口)
- ・高い水準での教育活動を展開されていると感じる。また現状の課題に対して正面から向き合い取り組もうとしているところは非常に評価される部分。(西川委員)
- ・産学連携、地域連携が行われている。(竹田委員)

(4) 学修成果

【評価】3

【意見】

- ・学生の意欲喚起にかかわる課題を丁寧に把握している。(西川委員)
- ・退学者への対策が必要。(竹田委員)
- ・退学者への対応は大変かと思うが、保護者としては、とてもありがたい。(角谷委員)
- ・卒業後のキャリアにおいて、学校で学んだことがどのように役に立つか、またどのようなことを学ぶ必要 があるかを感じたかの取り組みを行うなどをしてみてはどうか。(多田委員)
- →卒業生に対してアンケートなどを行うなどの取り組みをしていきたい。(山上)
- ・N3、N4の合格率の向上とその対策が必要。(竹田委員)

(5) 学生支援

【評価】4

【意見】

- ・卒業後の支援について、継続した取り組みに加え、今後は積極的にかかわろうとしている点は評価される。(西川委員)
- ・卒業生への支援は、どこまでやるべきか(どこもあまり出来てないと思うので)を検討し、OB・OG会の開催などをしてみてはどうか。(竹田委員)
- →今後、取り組みんでいきたい。(山上)
- ・在日外国人への教育整備は必要でしょうか。各自で頑張っているように思う。(角谷委員)

(6) 教育環境

【評価】4

【意見】

・特になし

(7) 学生の受入れ募集

【評価】4

【意見】

- ・時代の流れに合った学費の設定や新しいシステムの使用による適正な経費算出は大切だ。今後、教材の高騰などによる学費等の改定があるなら、募集において正しい情報を伝えてほしい。サービス向上の1つとして重要だ。(西川委員)
- ・教材の見直しが必要。(竹田委員)

(8) 財務

【評価】4

【意見】

・特になし

(9) 法令等の遵守

【評価】 4

【意見】

特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

【評価】 4

【意見】

- ・地域に根ざした活動ができている。(竹田委員)
- ・ボランティアの推進。(竹田委員)
- →取り組んでいく。(山上)
- ・コロナでボランティア活動も大変かと思うが出来ることはたくさんありそう。(角谷委員)
- ・献血等の取り組みは、とっつきやすいものだと考えるので、そのことについて協議できている点がよい。

(多田委員)

(11) 国際交流

【評価】 4

【意見】

- ・学内・外問わず、コミュニケーションが取れている。(竹田委員)
- ・今年度の卒業制作などでの学生間のコラボがステキでした。(竹田委員)

(12) 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

【評価】 4

【意見】

特になし